

### 児童自立支援施設入所児童の社会的ネットワーク： 少年院生との比較分析

岩田, 美香 / IWATA, Mika

---

(出版者 / Publisher)

法政大学現代福祉学部現代福祉研究編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The bulletin of the Faculty of Social Policy and Administration :  
reviewing research and practice for human and social well-being / 現代福祉研究

(巻 / Volume)

11

(開始ページ / Start Page)

223

(終了ページ / End Page)

240

(発行年 / Year)

2011-03-01

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007411>

# 児童自立支援施設入所児童の社会的ネットワーク

## —少年院生との比較分析—

岩 田 美 香

**【抄録】** 本報告は、児童自立支援施設入所児童に関する入所前の生活実態と意識について、同様の調査を行った少年院生との比較から分析を行った。その結果、児童自立支援施設入所児童は、親と一緒に暮らしていても、児童から見ると不十分なケアしか受けておらず、そのために具体的な生活場面においての不満が多くあがっていた。また、その保護者が十分に機能できない中で、児童にとって学校の先生や施設の先生の大存在は大きく、家族以上に頼りにされていた。今後は、施設退所に向けた、さらには退所後の家族援助が重要になると同時に、予防的な視点から、施設を利用する前の学校や、それ以前であれば保育所や幼稚園といった段階における、教育や保育に加えたソーシャルワークとしての家族援助の展開が要請される。

**【キーワード】** 児童自立支援施設、少年院、学校、家族援助

### 【調査概要】

#### 1. 調査の目的

本調査は、児童自立支援施設入所児童が、施設に入所する前に、どのような「人」たちに囲まれて生活していたのかを中心にして、その生活実態と意識を明らかにすることを目的として実施した。この調査は、平成20年度三菱財団社会福祉事業・研究助成による研究の一部である。本報告では、少年院生に対して行った同様の調査（岩田・二瓶、2008）との比較から分析を行う。

#### 2. 調査の手続きと実施期間

児童自立支援施設調査は、3都道府県5児童自立支援施設の協力を得て、入所児童への質問紙調査を行った。白紙を除き分析対象となった回答は、男子入所者が112票、女子入所者が67票であった。本報告では、比較対照が男子少年院であるため、男子入所者112名分を分析対象とした。調査期間は、

2008年10月～2009年7月である。なお調査における倫理的配慮については、法政大学大学院人間社会研究科研究倫理委員会の審査を受けた。

少年院調査は、A地域B男子少年院（初等・中等少年院、収容定員150名）に対して、質問紙調査を委託する形で行い、有効回答104票を分析対象とした。調査期間は2006年8月であり、調査の詳細は、岩田・二瓶（2008）を参照のこと。

両調査ともに、質問紙はプライバシーを配慮して無記名として実施した。

### 3. 調査対象者の特徴

調査対象者の年齢（表1）をみると、児童自立支援施設（以下、支援施設と表記する）が14歳・15歳で半数を占めているのに比べて、少年院は17歳・19歳（各々21.2%）が最も多く、次いで16歳で、年齢階層としては高い。比較においては、支援施設と少年院という施設間の比較と同時に、入所児童・少年たちの年齢による差異も考慮していく。

在籍していた／最後に通った学校について（表2）は、支援施設が中学校が半数、高校が2割弱（高校中退も含めても2割強）であるのに対して、少年院では、中退を含む高校と中学校が、それぞれ5割弱であった。さらに、少年たちからみた家族の経済状況（表3）では、支援施設・少年院ともに「普通だと思う」が4割で多数を占めているが、「豊だと思う」が支援施設で上回っており、「困っていると思う」が少年院で高くなっている。

支援施設への入所経路では、「児童相談所を通じて」が63.4%、「家庭裁判所の審判を通じて」が34.8%であった。

表1 年齢別回答者数

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
12歳以下	12	10.7	-	-
13歳	17	15.2	-	-
14歳	32	28.6	0	0
15歳	25	22.3	9	8.7
16歳	12	10.7	20	19.2
17歳以上/17歳	13	11.6	22	21.2
18歳	0	0	18	17.3
19歳	0	0	22	21.2
20歳	0	0	12	11.5
N.A	1	0.9	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表2 在籍していた学校 / 最後に通った学校

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
小学校	11	9.8	-	-
中学校	63	56.3	46	44.2
高校	21	18.8	48	46.2
高校中退	5	4.5	-	-
専門学校	-	-	6	5.8
短大	-	-	1	1.0
大学	-	-	0	0
その他	9	8.0	-	-
N.A	3	2.7	3	2.9
合計	112	100.0	104	100.0

表3 家族の経済状況はどのくらいだと思うか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
豊かだと思う	15	13.4	8	7.7
普通だと思う	47	42.0	46	44.2
困っていると思う	40	35.7	45	43.3
わからない	9	8	5	4.8
N.A	1	0.9	0	0
合計	112	100.0	104	100.0

#### 4. 調査内容

家族との関わり、学校の先生との関わり、友人との関わり、地域との関わり、施設を退所した後の生活について。

##### 【調査結果】

#### 1. 家族との暮らし

##### (1) 誰と住んでいたのか

少年たちが、少年院に入院する前に暮らしていた家族構成員（表4）は、少年院で実父母がそれぞれ半数を超えているのに比べて、支援施設では、実母は7割を超えているが実父は3割にとどまっている。また、少年たちの身の回りの世話をしてくれていた人についてみると（表5）、両施設とも実母が最も高いが、その割合は少年院（71.2%）よりも支援施設の方が63.8%と低い。また「誰もいない」という者も4名（3.6%）存在していた（少年院調査では、回答項目に「誰もいない」を含んでいなかった）。そのためか、「同居者と一緒に住みたくない人（表6）」も支援施設において28.6%と高く、その内訳（表7）は実母が31.3%と高くなっている。支援施設では、少年院に比べて実母と一緒に暮らしている割合は高いものの、子どもへのケア役割では十分に機能していない様子がうかがえる。

表4 誰と生活していたか(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
実のお父さん	35	31.3	52	50.0
義理のお父さん	21	18.8	16	15.4
実のお母さん	83	74.1	72	69.2
義理のお母さん	5	4.5	6	5.8
おじいさん	10	8.9	8	7.7
おばあさん	19	17.0	12	11.5
きょうだい	64	57.1	-	-
義理のきょうだい	8	7.1	-	-
お兄さん	-	-	30	28.8
お姉さん	-	-	27	26.0
弟	-	-	28	26.9
妹	-	-	25	24.0
親戚の人	-	-	4	3.8
その他	16	14.3	15	14.4
回答者数(人)	112		104	

表5 身の回りの世話をしてくれる人

(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
実のお父さん	22	19.6	31	29.8
義理のお父さん	7	6.3	3	3.8
実のお母さん	71	63.4	74	71.2
義理のお母さん	4	3.6	3	2.9
おじいさん	5	4.5	6	5.8
おばあさん	16	14.3	11	10.6
きょうだい	14	12.5	15	14.4
親戚の人	-	-	3	2.9
その他	13	11.6	13	12.5
誰もいなかった	4	3.6	-	-
回答者数(人)	112		104	

表6 同居者に一緒に住みたくない人がいるか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
いいえ	74	66.1	82	78.8
はい	32	28.6	20	19.2
N.A	6	5.4	2	2.0
合計	112	100.0	104	100.0

表7 一緒に住んでいる人の中で一緒に住み

たくない人(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
実のお父さん	9	28.1	7	35.0
義理のお父さん	8	25.0	5	25.0
実のお母さん	10	31.3	5	25.0
義理のお母さん	1	3.1	2	10.0
おじいさん	2	6.3	1	5.0
おばあさん	2	6.3	1	5.0
きょうだい	7	21.9	6	30.0
義理のきょうだい	2	6.3	-	-
その他	6	18.8	4	20.0
回答者数(人)	32		20	

## (2) 家庭内での会話

家庭内でのコミュニケーションについては、「学校や友人のこと(表8)」について「いつも(14.3%) +時々(33.0%)」話したという者が47.3%で、少年院の57.7%よりも1割程度低い。「学校の勉強のこと(表9)」や「自分の悩みや心配事(表10)」については、少年院生よりは上回っているものの、学校の勉強で「いつも(12.5%) +時々(33.0%)」話す者が45.5%、悩み事で「いつも(8.9%) +時々(20.5%)」話す者が29.4%と、半数に満たない状況である。少年たちは、親とのコミュニケーションを欲しており、「もっと親と話がしたい」者は67.9%に上っている(表11)。

表8 親に学校や友達のことについて話していたか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いつも話した	16	14.3	60	57.7
時々話した	37	33.0		
ほとんど話さなかった	25	22.3	43	41.3
まったく話さなかった	31	27.7		
N.A	3	2.7	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表9 学校の勉強の内容や、成績について親と話したか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いつも話した	14	12.5	34	32.7
時々話した	37	33.0		
ほとんど話さなかった	24	21.4	68	65.4
まったく話さなかった	34	30.4		
N.A	3	2.7	2	1.9
合計	112	100.0	104	100.0

表10 親に悩み事や心配事を話したか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いつも話した	10	8.9	24	23.1
時々話した	23	20.5		
ほとんど話さなかった	33	29.5	72	69.2
まったく話さなかった	44	39.3		
N.A	2	1.8	8	7.7
合計	112	100.0	104	100.0

表11 もっと親と話をしたいか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
話したい	76	67.9	69	66.4
話したくない	28	25.0	34	32.7
N.A	8	7.1	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

### (3) 日常生活

そもそも家族とどのように暮らしているのかについて見れば、日ごろの夕食を誰と食べているのかを複数回答でたずねても(表12)、「家族そろって」が3割程度、「家族の誰かと」が2割弱であり、「ひとりで」という者も3割を超している。少年院生の場合は、より年齢も高いため、外に出て友人等と夕食を食べている者も多いが、支援施設の場合は、夕食時には家にいて、しかし誰かがいるわけではなく個食となっている割合が高いのであろう。

休日に親と一緒に過ごすこと(表13)も、「ほとんどない」+「まったくない」が44.7%と4割を超えており、長期休暇の時などに家族で行く旅行やキャンプ(表14)も、「まったく行かない」が33.0%、「ほとんど行かない」が26.8%と、少年院生よりはやや親との接触が多いとはいえ、年齢的な違いも考慮すると、家族で楽しむ経験は少ない。

反対に「家族が暴力をふるうこと(表15)」は「いつも(17.0%)」+「時々(21.4%)」で38.4%と4割近く、これは少年院生よりも高い割合である。少年院生は、先の夕食と同様に外に出歩くことも多く、親から暴力を受ける以前に家にいない事も多いと思われる。

表12 夕食をだれと食べたか

(児童自立支援施設のみ複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答者 数 (人)	構成比 (%)
家族そろって	36	33.6	10	9.6
家族の誰かと	19	17.8	18	17.3
ひとりで	36	33.6	31	29.8
家族以外と	27	25.2	42	40.4
N.A	-	-	3	2.9
回答者数/合計	107		104	100.0

表13 休日に親と過ごした頻度

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者 数 (人)	構成比 (%)	回答者 数 (人)	構成比 (%)
よくあった	26	23.2	7	6.7
時々あった	31	27.7	42	40.4
ほとんどなかった	35	31.3	33	31.7
まったくなかった	15	13.4	21	20.2
N.A	5	4.5	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表14 家族で旅行やキャンプに行ったか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者 数 (人)	構成比 (%)	回答者 数 (人)	構成比 (%)
よく行った	13	11.6	10	9.6
たまに行った	30	26.8	23	22.1
ほとんど行かなかった	30	26.8	20	19.2
まったく行かなかった	37	33.0	50	48.1
N.A	2	1.8	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表15 家族が暴力をふるうことがあったか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者 数 (人)	構成比 (%)	回答者 数 (人)	構成比 (%)
いつもあった	19	17.0	7	6.7
時々あった	24	21.4	23	22.1
ほとんどなかった	22	19.6	27	26.0
まったくなかった	44	39.3	46	44.2
N.A	3	2.7	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

#### (4) 家族への評価

こうした暮らしを反映して、「家族との生活の満足度(表16)」も、満足(とても満足+満足)が47.3%、不満(あまり満足していない+不満)が51.8%で、若干不満が上回っていた。支援施設の児童は、相対的に少年院生よりも家族への不満が高く、その不満の内容(表17)としては、「家族と一緒に楽しむことがない」「家庭に争いごとがある」「親が自分を理解してくれない」「親が自分に厳しい」「一緒に住んでいる人との気が合わない」が上位を占めている。

先に概観したように、支援施設の児童は、年齢的にも低く、より家族と一緒に住んでいる割合が高い。だからこそ家族、特に親に対して厳しい評価となっているのであろう。次に記す「家族に対する悩み」の自由回答も、悩みというより親への不平や不満を述べている。

表16 家族との生活の満足度

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
とても満足していた	23	20.5	64	61.5
満足していた	30	26.8		
あまり満足していなかった	29	25.9	40	38.5
不満だった	29	25.9		
N.A	1	0.9	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表17 家族との生活を不満とする理由(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
家庭の収入が少ない	14	25.5	8	20.0
家庭に争いごとがある	21	38.2	11	27.5
家族と一緒に楽しむことがない	32	58.2	18	45.0
家に居場所がない	16	29.1	12	30.0
家がせますぎる	11	20.0	7	17.5
家の周囲の環境が悪い	10	18.2	2	5.0
親の愛情が足りない	11	20.0	7	17.5
親が自分に厳しい	17	30.9	9	22.5
親が自分を理解してくれない	18	32.7	9	22.5
親の職業が嫌い	5	9.1	2	5.0
兄弟姉妹の仲が悪い	10	18.2	-	-
一緒に住んでいる人との気が合わない	17	30.9	14	30.0
ただなんとなく	4	7.3	5	12.5
その他	6	10.9	8	20.0
回答者数(人)	55		40	

◎家族に対して何か悩みがありましたら、お書きください。(自由回答)

\*今はお父さんに悩みを持っています。\*ココを出ても絶対変わるって訳じゃない事を分かって欲しいです。それにもう、しばられたくないです。\*おばあちゃんが住んでいる所を見つけてください。\*いろいろ迷惑をかけてすいません。\*いちいち書く必要性0%。\*お金が少ない。\*性格悪い。\*すべて嫌、特に父さん。\*兄ちゃんが僕にきびしい。\*ばあちゃんのぼけがひどくなってきている。\*いちいちうるさい。\*今はない。\*自分かってすぎてこまっている。\*別に無い。\*家のことができてなくてこまる。\*今はない、あるとしたら弟のこと。\*へやがきたない。\*ありすぎて書ききれません。\*別に…。\*自分の思いも聞いてほしい。\*母さんが病気。\*自分の事でトラブルになったことが多いが厳しかった。\*当時は殺したい程嫌いだったけど、今は考え方や状況が変わって、今はまた仲良く暮らしたいと思っている。ただ、今までの自分のままだと思われたら、今度は向こうから叩き出されるんじゃないかと思う。\*自分だけがおいでいかれているような気がする。\*今はないです。前は、自分のせいでうまく行ってない時があった。\*弟がもっとおちつい



てほしい。\*キライ。\*おばあちゃんの病気が早くなおってほしい。

さらに、「家族が困ったときに頼りになるか(表18)」についても、「あまり頼りにならない(16.1%) + 頼りにならない (18.8%)」と、3割以上の者が頼りにならないと回答しており、これは少年院生よりも高くなっている。併せて、その頼れる家族の内訳を複数回答でたずねている(表19)が、「実母(66.2%)」「きょうだい(36.8%)」「実父(32.4%)」が上位を占めているものの、その割合は少年院生よりも低い。特に、実父の割合が低いが、これは実父と暮らしていた者が少ないためである。一方、割合としては2割程度であるが、「おばあさん」を頼りにしている児童が少年院生よりも多い。

「施設を退所した後の家族との接し方」に関する自由回答についても、「ふつうに」「今まで通り・以前と同じ」「謝罪・反省」「要求(しゃべりたい、仲良くしたい)」「かかわりたくない」といった内容に集約される。

表18 家族は困ったときに頼りになるか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	30	26.8	36	34.6
頼りになる	39	34.8	44	42.3
あまり頼りにならない	18	16.1	12	11.5
頼りにならない	21	18.8	12	11.5
N.A	4	3.6	0	0.0
合計	112	100.0	104	100.0

表19 家族の中で頼れる人(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
実のお父さん	22	32.4	42	52.5
義理のお父さん	9	13.2	5	6.3
実のお母さん	45	66.2	57	71.3
義理のお母さん	1	1.5	1	1.3
おじいさん	7	10.3	5	6.3
おばあさん	15	22.1	8	10.0
きょうだい	25	36.8	35	43.8
義理のきょうだい	1	1.5	-	-
親戚の人	6	8.8	16	20.0
その他	8	11.8	2	2.5
回答者数(人)	68		80	

◎児童自立支援施設を退所した後、家族とどのように接したいですか。(自由回答)

\*わからない。\*普通どおり。\*今まで通り普通に接したい。\*していない。\*ふつうに。\*普通に接したいです。\*普通になにごともなく。\*いままでどおりにつきあいたい。\*なるべく接したくない。\*今までのことを謝罪して、まじめにやっていきたいです。\*家族と一緒に暮らしたいです。\*ここに来る前よりは、しゃべったり、関わりを多くしたい。\*今までと同じに。\*仲良く、日々生活を楽しく暮らしたいです。\*普通に、出来れば仲良く。\*ふつうに生活する。\*仲良く。\*ちよくちよく。\*オレには、夢がある!!\*もう迷惑をかけず、過ごしたい。\*仲良くしたい。\*おだやかに生活して、自分の夢に進んで行きたい。\*ふつうに接したいです。\*家族に迷惑をかけないように生活して行きたい。\*また、自分自身が本心に戻って帰った時は、家族皆と一緒に笑って行ける様な楽しく仲良くして行きたい。普通に戻りたい。\*あまりかかわりたくない。\*仲良

く手伝い等をしてだすけをしていきたい。\*たよりになるように。\*あまりかかわりたくない。\*したくない。\*なかよく。\*楽しく、ふつうにくらいしたい。\*前みたいな問題をおこさずに生活する。\*介護してあげたい。\*あまりかかわらない。\*色々な事を相談したり助けあえる生活をしたいと思います。\*普通に接したい。\*まったく接しないようにする。\*仲良くしたい。\*普通の親子として。\*今まで以上に連絡をとりたい。\*あまり接するきはない。\*いつまでも家族ゼーインくらすために悪いところをなおしていくつもりです。\*そんな時にならないとわからない。\*お互い色々なことを話し合ってもっと仲よくしたい。\*家をそうじしてあげたいです。\*親の言うこと。\*何事もなく。\*今まで通り。\*ムリはしない。\*話などあるていどのことができるくらい。\*とくに考えていない。\*自立し、一緒に暮さずに距離をおく。\*ふつうにせつしたいです。\*なかよく。\*わからない。\*よりを戻したい。\*ふつうに、お母さんにくろうさせないようにしたい。\*にもつをもってあげる。ふくとか自分でよういする。\*たすける。元気ずける。\*前より仲良く。それと、今までめいわくをかけた分はいろいろと助けてあげる。\*ない(一人ぐらし)。\*昔とは違う、時間も大切に、良い関係。\*あたたかく。\*今は考えていない。\*助け合って、恩返しをしたい。\*今は、まだ考えていないから、これから考えて行く。\*仲よく、楽しく、元気に。\*困った事を相談したり、色々相談していきたい。\*一緒にくらいしたい。家族を大切に家族を助けていきたい。\*迷惑をかけない。\*お父さん\*お母さんを大切にしたい。\*アルバイトして迷惑かけないようにする。\*あまり家族にめいわくをかけずに、やる事があればたすけてあげる。\*仲よくして、楽しく話しをできる関係。\*家族となかよくすごしたい。\*ゲームとかしたり、いっぱいはない。\*接したくない。\*少なくとも昔よりは大事にしたい。もっと手伝いや掃除をできればと思う。\*今まで通りに。\*ちゃんと話しをきいて父さんが言ったらやってくれるようになってほしいです。\*やさしく、あたたかく接したい。\*まず、誰に対しても優しく、母親を困らせないように生活していきたいです。そして、会話を大事にしていきたい。\*友達を家によばないようにする。\*前みたく、めいわくかけずに、仲よく接したい。\*楽しく、何にも問題がないような生活がしたいです。\*互いに話し合えるかんけい。\*ふつうに。\*親のためになる事をしたい。\*普通にです。\*ふつうに接したい。\*ここで学んだことを生かしていきたい。\*家族を守りたい。\*しあわせになつてもらえるように接したい。

## 2. 学校生活における先生

学校における先生との関係(表20)では、7割弱の児童が「好きな先生」はいるが、その割合は少年院生を下回っている。それが、どの学齢段階の先生であったのか(表21)については「中学校」

と「小学校」で二分しているが、これは支援施設児童の年齢が低いためである。さらに、好きな先生の内訳を複数回答で聞いていくと、「担任」が一位であるが、「その他」も5割を占めており、少年院生が圧倒的(85.3%)に「担任」を支持していたのとは異なっている(表22)。

少年院生も、こうした好きな先生に「もっと話を聞いてほしい」という要望は高かった(54.8%)が、支援施設の児童は65.3%もの児童が要望していた(表23)。さらに学校の先生への評価については、「とても満足(8.0%)+満足(39.3%)」で5割弱が満足していたが、少年院生の68.3%よりは厳しい評価となっている(表24)。しかし、困ったときに先生が頼りになるかどうかについては、支援施設の児童の方が「頼りになった」と回答しており、なかでも「とても頼りになった」は46.7%と半数近い(表25)。この値は、家族に対して頼りになるという回答(表18)よりも高くなっている。

表20 好きな先生

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いなかった	35	31.3	29	27.9
いた	75	67.0	75	72.1
N.A	2	1.8	0	0.0
合計	112	100.0	104	100.0

表21 好きな先生はいつの先生か(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
小学校	33	41.3	30	40.0
中学校	41	51.3	53	70.7
高校	3	3.8	14	18.7
その他	3	3.8	1	1.3
回答者数(人)	80		75	

表22 好きな先生は誰か(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
担任の先生	46	62.2	64	85.3
保健室の先生	13	17.6	22	29.3
その他	37	50.0	20	26.7
回答者数(人)	74		75	

表23 好きな先生に、もっと話を聞いてもらいたかったか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
思う	49	65.3	57	54.8
あまり思わない	24	32.0	39	37.5
N.A	2	2.7	8	7.7
合計	75	100.0	104	100.0

表24 学校の先生全般の満足度

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても満足していた	9	8.0		
満足していた	44	39.3	71	68.3
あまり満足していなかった	27	24.1		
不満だった	17	15.2	30	28.8
N.A	15	13.4	3	2.9
合計	112	100.0	104	100.0

表25 好きな先生は困ったときに頼りになったか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになった	35	46.7	29	27.9
頼りになった	31	41.3	43	41.3
あまり頼りにならなかった	5	6.7	5	4.8
頼りにならなかった	1	1.3	19	18.3
N.A	3	4.0	8	7.7
合計	75	100.0	104	100.0

### 3. 友人関係

児童たちの友人関係について、学校と学校以外とに分けて見てみる（表26）と、それぞれに友人をもっており、その親しくなった経緯（表27）は、学校では「近所」「同じクラス」「クラブ活動」であり、学校以外で付き合い合う友人についても「学校の友人（59.2%）」が6割近く、次いで「街で知り合った（49.0%）」、「学校以外の友人を通して（33.7%）」、「ゲームセンターで（29.6%）」となっており、「メール・出会い系（11.2%）」は少ない。また学校外の友人に関しては、いずれもが少年院生よりも割合が低く、少年院生が様々な要因で外の友人と繋がってしまっているのに対して、支援施設の児童は、まだ学校を中心として外とつながっている場合が多いと思われる。

学校における友達との関係では、複数回答で3割以上の回答を拾っていくと「何も言わなくても分かり合える」「悲しい事があったら話を聞いてもらう」「お互いの悪いところは言い合える」というような関係を築いている一方、「あまり深刻な話しはしない」というように一定の距離を置いて付き合っている（表29）。また、「いじめられている」という回答をした者も9名いた。

こうした友人に対する評価については、7割程度の児童が「困ったときに頼りになり」（表30）、「満足している」（表31）と回答しているが、その満足度の割合は少年院生の回答よりは低い。また、学校の教員（表24・25）との比較においては、満足度では友人関係の方が高いが、頼りになるのは教員の方で高くなっている。

一方、「友人との間での困ったことの有無」（表32）は、交友関係の広がりやを反映して、支援施設の児童では学校における友人との間において、また少年院生では学校以外の友人との間において、困ったことがあると回答している。その内容（表33）も、支援施設の児童は学校内外ともに「気の合う友達がいらない」「仲間外れにされる」といった関係性における困りごとがあげられている。少年院生の場合には、「好きでもないのに付き合いなければならない」という回答が学校内外ともに4割を超えており、無理をして友人関係を継続している様子が見えてくる。

また、異性の友人については8割以上の児童がもっており、「異性の友人がいらない」は1割程度である（表34）。

表26 信頼できる / 親しい友達の有無

	児童自立支援施設				少年院			
	学校での友達		学校以外で付き合う友達		学校での友達		学校以外で付き合う友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いなかった	14	12.5	10	8.9	9	8.7	2	1.9
いた	96	85.7	94	83.9	93	89.4	100	96.2
N.A	2	1.8	8	7.1	2	1.9	2	1.9
合計	112	100.0	112	100.0	104	100.0	104	100.0

表27 学校の友達と仲良くなった理由  
(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
近所に住んでいるから	37	39.8	53	57.0
同じクラスだから	68	69.4	56	60.2
塾や習い事が一緒だった	3	3.1	5	5.4
クラブ活動が一緒だから	28	29.6	31	33.3
親同士の仲がよいから	16	17.3	10	10.8
その他	24	25.5	27	29.0
回答者数(人)	96		93	

表28 学校以外で付き合う友達とどこで知り合ったか (複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
幼なじみ	22	22.4	38	38.0
学校の友達	58	59.2	72	72.0
職場・アルバイト先で知り合った友達	0	0.0	34	34.0
街で知り合った友達	48	49.0	63	63.0
塾や予備校の友達	3	3.1	2	2.0
メール・出会い系や電話・インターネットを通して	11	11.2	40	40.0
学校以外での友達の紹介	33	33.7	80	80.0
ゲームセンター	29	29.6	35	35.0
その他	18	18.4	20	20.0
回答者数(人)	94		100	

表29 学校の友達との関係 (複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	37	37.4	58	55.8
相手にけっこう気をつけている	24	24.2	31	29.8
あまり深刻な相談はしない	33	33.3	28	26.9
つきあっているのは何か得るものがあるからだ	16	16.2	21	20.2
お互いに張り合う気持ちがある	23	23.2	33	31.7
何も言わなくてもわかりあえている	42	42.4	47	45.2
お互いの性格は裏の裏まで知っている	27	27.3	45	43.3
自分のすべてをさらけ出すわけではない	22	22.2	29	27.9
お互いに悪いところは悪いといいあえる	32	32.3	52	50.0
一緒にいるときでも別々のことをしている	11	11.1	24	23.1
いじめられている	9	9.1	0	0.0
その他	15	15.2	0	0.0
回答者数(人)	99		104	

表30 学校の友達は困ったときに頼りになるか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	29	25.9	33	31.7
頼りになる	52	46.4	41	39.4
あまり頼りにならない	15	13.4	16	15.4
頼りにならない	11	9.8	13	12.5
N.A	5	4.5	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表31 学校での友達の満足度

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても満足していた	37	33.0	85	81.7
満足していた	46	41.1		
あまり満足していなかった	13	11.6	18	17.3
不満だった	12	10.7		
N.A	4	3.6	1	1.0
合計	112	100.0	104	100.0

表32 友達との関係で困っていたことの有無

	児童自立支援施設				少年院			
	学校での友達		学校以外で付き合い合う友達		学校での友達		学校以外で付き合い合う友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いいえ	73	65.2	90	80.4	84	80.8	72	69.2
はい	32	28.6	15	13.4	20	19.2	29	27.9
N.A	7	6.3	7	6.3	0	0.0	3	2.9
合計	112	100.0	112	100.0	104	100.0	104	100.0

表33 困っている内容（複数回答）

	児童自立支援施設				少年院			
	学校での友達		学校以外で付き合い合う友達		学校での友達		学校以外で付き合い合う友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
気の合う友達がいない	13	38.2	9	60.0	5	25.0	6	20.7
お互いに心を打ち明けあうことができない	5	14.7	3	20.0	7	35.0	9	31.0
自分よりも他の人と仲良くする	7	20.6	2	13.3	3	15.0	3	10.3
仲間はずれにされる	9	26.5	3	20.0	5	25.0	2	6.9
自分のすることに口出ししている	8	23.5	4	26.7	2	10.0	7	24.1
グループのなかのまとまりが悪い	7	20.6	3	20.0	5	25.0	13	44.8
自分のことをわかってくれない	9	26.5	3	20.0	3	15.0	3	10.3
自分のいうことがとおらない	6	17.6	3	20.0	1	5.0	3	10.3
自分に冷たい	4	11.8	5	33.3	4	20.0	2	6.9
好きでもないのにつき合わなければならない	7	20.6	4	26.7	8	40.0	13	44.8
パシリに使われている	5	18.7	3	20.0	-	-	-	-
つきあっても張り合がなく、自分が向上しない	-	-	-	-	5	25.0	5	17.2
その他	9	26.5	3	20.0	6	30.0	8	27.6
回答者数(人)	32		15		20		29	

表34 異性の友人の人数

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
いた	95	84.8	95	91.3
いない	11	9.8	7	1.9
N.A	6	5.4	2	6.7
合計	112	100.0	104	100.0

#### 4. 住んでいた地域社会

支援施設を退所した後に、自分が住んでいた地域に戻りたいか否か(表35)については、25.0%すなわち4人に1人が元の地域には戻りたくないと回答している。その理由として(表36)は、複数回答で割合が高い順に、「生活環境が悪い」「生活が不便である」「家族と離れたたい」「周りの人々がうるさい」といった、ここでも家族を中心とした身近な大人への不満が表れている。一方、少年院生の場合は選択肢が少なかったために「その他」の回答が多かったが、その内容は、自らの交友関係を断ち切りたいという思いが強かった。

表35 少年院を出た後、前の地域に戻りたいか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
戻りたい	79	70.5	78	75.0
戻りたくない	28	25.0	26	25.0
N.A	5	4.5	0	0.0
合計	112	100.0	104	100.0

表36 地域に戻りたくない理由(複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
生活が不便である	10	35.7	8	30.8
人の気持ちが冷たい	6	21.4	3	11.5
まわりの人々がうるさい	9	32.1	2	7.7
さわがしくて、落ち着かな	8	28.6	3	11.5
活気がない	5	17.9	4	15.4
よい学校や就職口がない	8	28.6	5	19.2
空気が汚れているなど、生活環境が悪い	16	57.1	3	11.5
親しい人がいない	5	17.9	4	15.4
家族と離れたたい	10	35.7	-	-
付き合っていた友だちと離れたたい	4	14.3	-	-
その他	5	17.9	17	65.4
回答者数(人)	28		26	

## 5. 将来について

少年たちが支援施設を出た後に、どの学校まで進学したいのか（表37）については、「中学まで」の義務教育段階で良いという回答は1割程度で、「高校まで」が4割弱、「専門学校+短大」まで進学したいと考えている児童が2割程度であった。さらに「大学まで」進学したいという希望も1割程度おり、少年院生の5.8%に比べて高かった。

一方、仕事について（表38）は、7割程度が就きたい仕事を抱いているが、年齢的なこともあり、少年院生は86.5%に上っている。

また、こうした将来のことについて最も相談に乗ってくれる（表39）のは、実母が最も高いことは少年院生と同様であるが、次いで「施設の先生」、「異性の友人」という順番になっている点は異なっている。相談に乗ってくれる人が「いない」という児童も6人存在していた。

最後に、自分の人生の中で一番に心に残る人（表40）をあげてもらうと、これも実母が一番で、その割合も複数回答で4割を超えている。それに続く順位は、前問の「相談に乗ってくれる人」と同様で、「施設の先生」、「異性の友人」となっており、心に残る人についても6名の児童が「いない」と回答していた。

表37 将来、どの学校まで進学したいか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
中学校卒業まで	14	12.5	19	18.3
高校まで	41	36.6	36	34.6
専門学校まで	20	17.9	20	19.2
短大まで	1	0.9		
大学まで	12	10.7	6	5.8
考えていない	12	10.7	-	-
わからない	6	5.4	20	19.2
N.A	6	5.4	3	2.9
合計	112	100.0	104	100.0

表38 将来つきたい仕事はあるか

	児童自立支援施設		少年院	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
ある	79	70.5	90	86.5
ない	29	25.9	14	13.5
N.A	4	3.6	0	0.0
合計	112	100.0	104	100.0



表39 一番相談にのってくれるのはだれか

(児童自立支援のみ複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
実のおとうさん	20	18.3	12	11.5
義理のおとうさん	5	4.6	1	1.0
実のおかあさん	42	38.5	37	35.6
義理のおかあさん	1	0.9	0	0.0
おじいさん	6	5.5	0	0.0
おばあさん	9	8.3	0	0.0
きょうだい	9	8.3	9	8.7
親戚の人	6	5.5	1	1.0
学校の先生	10	9.2	1	1.0
施設 / 少年院の先生	27	24.8	7	6.7
学校の友達	12	11.0	2	1.9
異性の友達	14	12.8	7	6.7
学校以外の場でつきあう友達	9	8.3	6	5.8
近所に住む大人	1	0.9	0	0.0
そのような人はいない	6	5.5	5	4.8
その他	5	4.6	7	6.7
N.A	-	-	9	8.7
回答者数 / 合計	109		104	100.0

表40 一番心に残る人は誰か

(児童自立支援のみ複数回答)

	児童自立支援施設		少年院	
	回答数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)
実のおとうさん	17	15.9	12	11.5
義理のおとうさん	3	2.8	0	0.0
実のおかあさん	45	42.1	31	29.8
義理のおかあさん	1	0.9	0	0.0
おじいさん	10	9.3	4	3.8
おばあさん	4	3.7	1	1.0
きょうだい	11	10.3	4	3.8
親戚の人	2	1.9	0	0.0
学校の先生	0	0.0	0	0.0
施設 / 少年院の先生	18	16.8	8	7.7
学校の友達	11	10.3	4	3.8
異性の友達	14	13.1	9	8.7
学校以外の場でつきあう友達	9	8.4	8	7.7
近所に住む大人	0	0.0	0	0.0
そのような人はいない	6	5.6	7	6.7
その他	6	5.6	11	10.6
N.A	-	-	5	4.8
回答者数 / 合計	107		104	100.0

## 6. 大人への要望

「これから社会で生活していくことを考えた時、現在の大人に一番に望むことは何ですか」に対する自由回答では、下記に示したように、親を中心とした自分に関わった特定の大人へのクレームがあげられていた。

### ◎大人に一番望むことは何ですか。(自由回答)

\*法律を変えて欲しい。\*特にない。\*約束を守って欲しい。\*大人というか、親に、自分の感情任せに暴力をふるうのは辞めて欲しい。\*非行少年について理解していない大人について、まず、みんな悩みをもっていて、それを打ち明けられなくて、言葉をくれても満足できなくて、物足りなくて、時には大人がいなくなってほしい時もあるのです。大人だからって全て正しくて、自分が子供に言う事があっていて思わないでほしいです。\*たくさんありすぎて、書ききれない。\*おこずかいをもっと上げて欲しい。\*むずかしいのは分かるけど、外見ばかり気にせず裏表のない人間になってほしい。\*完璧な大人はいないと思うけど、少なくとも俺は外見や裏表のない大人になりたいと思う。\*一人一人の大切さを分かかって欲しい。\*子供の進路をもっと一緒に考えて欲しい。\*ドラエモン。\*ゆったらなんかおきるんですか。\*理不尽さをないようにしてほしい。\*あまりないです。\*ちゃんと話をしてほしい。\*卒業。\*普通の暮らし。\*僕の気持ちをわかかってほしい。

\*あまりウソを言わないで下さい。\*差別をしないでほしい。\*子供とたくさん色々な所について大事にしたい。\*子供を大切に思っていてほしいです。\*もっと話を聞いてほしい。1人でなやまないで話してほしい。\*家のことをしっかりしてほしい。\*様々な面で子供の事を考えてほしい。\*すべてを押しつけないこと、頭をやわらかくしてほしい、古い考えにとらわれない、聞く耳を持ってほしい、僕は物ではない。\*めんどくさいことをおしつけないでほしい、施設に入所するなら子供を作らないでほしい、再婚をしないほうが子供のためである。\*平和。\*別に…。\*児童自立支援施設に入所したからといって自分を見すてないで下さい。\*口だけでなく行動で示して欲しい、口だけだと絶対に逆効果です。\*快樂だけのために子供を作るのはやめて下さい。\*自分のような環境にある子供を一人でもなくして、救ってあげてほしい。そして、そのような大人には厳しく対処してほしい。(法律を新たに設けたりして)。\*自分がゆった事は、まもってほしい。お金があるのにないとゆう。やさしくしてほしい。夜にいなくならないでほしい。\*おこづかいがほしい。けんかしないでほしい。むししないでほしい。みんないっしょにごはんをたべてほしい。\*自分の事を棚にあげて子供を頭ごなしに怒る。\*自分ができていないのに人に言うのはやめてほしい。\*何かあったらすぐに逃げるのもやめてほしい。\*みんないっしょにごはんをたべてほしい。\*子供と大人で同じ視点に立ち、もっと、しっかりと話しを聞いて、物事を平等に判断してほしい。\*大人は、ケンカしないでほしい。家にいてほしい。体を大切にしてほしい。\*もっと、いえにいてほしい。\*いっしょにごはんをたべたい。\*おこづかいをふやしてほしい。\*もう少しきつくおこってほしい。\*朝とか起きていてほしい。\*もう少し、いっしょにいてほしい。\*頭ごなしにぐちぐちへりくつを言うのはやめて欲しい。優しく接してほしい。そのためには自分も前みたいなケンカごしの接し方ではなく、自分もやわらかい接し方を心がける。\*自分がやっていないのにぐだぐだ命令しないでほしい。\*大人に望んでもムダだと思います。\*信用できる大人なんて自分のなかでは母親と父親くらいなんです。\*大人なんてかんたんに子供の期待をうらぎり、かんたんに約束をやぶる。それが大人です。自分の中ではそう思ってます。以上。\*長く生きてほしい。\*大人の勝ってしないで欲しい。\*自分のそんけいできる大人。\*少し、子供などに対してキツイ所があると思います。\*もっと人を助けてほしい。\*もっと子供の事を考えろ！！

## 7. まとめ

児童自立支援に入所している児童は、親（特に実母）と一緒に暮らしていても、児童から見ると不十分なケアしか受けておらず、そのために具体的な生活場面においての不満が多くあがっていた。しかし、その不満は親に対してのあきらめというよりも要求の表れであり、例えば親子間の話し合

いにしても、子どもたちが話したくないから話さないのではなく、親子でのコミュニケーションをもっともちたいと思いつながら、それができない状況に置かれているのであろう。彼らにとって実母は、「一緒に住みたくない人」でありながらも「一番に心に残る人」であるという回答を見ると、彼らの複雑な心境が読みとれる。

また、その保護者が十分に機能できない中で、児童にとって学校の先生や施設の先生の存在は大きく、更なる要望も出されていたが、家族以上に頼りにされていた。

調査の結果から見える児童たちの声や、児童自立支援施設を退所した後も、少年院に繋がってしまう少年も存在することを考えると、施設退所に向けた、さらには退所後の家族援助が重要になってくる。一方、これほどまでに家族に不満を抱かせる家族関係に対して、児童自立支援に入所前に何かしらの援助ができなかったのか、児童が何か事を起こさなければ援助・介入できなかったのか、という点からも子どもたちの支援を考えていくことが大切である。すなわち予防的な視点で見れば、施設を利用する前の学校や、それ以前の発達段階であれば保育所や幼稚園といった身近な場所において、教育や保育に加えたソーシャルワークとしての家族援助が、「特別なケース」対応としてではなく展開されていくことが必要であろう。

#### 【引用文献】

- 岩田美香・二瓶隆子 (2008) 「少年院生の生活と意識に関する調査結果」『教育福祉研究』北海道大学大学院教育学研究院・教育福祉論分野。
- 岩田美香 (研究代表者) (2011) 『社会経済的要因からみた「非行少年」の援助に関する研究報告書』平成20年度三菱財団社会福祉事業・研究助成報告書。